

開成の杜

第70号 ● 2006年6月1日 ● 郡山女子大学大学院 ● 郡山女子大学 ● 郡山女子大学短期大学部 ● 郡山女子大学附属高等学校 ● 郡山女子大学附属幼稚園

● 発行所 / 学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024 (932) 4848 (代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ● 発行人 / 学園長 関口富左

創立60周年記念第1号



杜に囲まれて……南に屋上菜園の一部

(撮影 山口郁生)

「静心なく花の散るらん」と、数日の静養の時をもった故か、わが庭で散る桜のおおらかな美しさを、今年ほど心豊かに眺めたことはなかった。同じ状況でも心の在りようで、こうも異なることかと、改めて日頃の忙しさによる心のさまを省みた。

さて、今年は学園創立六十周年の時である。創立時は、未だ敗戦後であつただけに、かえつて創立への思いも強く、女子の高等教育の必要性を求めた。戦後の疲弊した社会であればあるだけに、一途な思いで女子高等教育の普及を意図したことが懐かしく、またいじらしくも思い出される。

某高等女学校を訪ね、新設校設置に意を求めたが、それは到底無理だとの意見であつた。しかし、私は理解をしなかった。

一方、女子の高等教育機関設置への意向も伝わつたのが、教え子達が「二、三、四、五名と、戦時中の勉学不足を補うことか、学ぶことに積極的な期待を示す雰囲気が見えた。また、教授については、高等教員検定の方途が新設されていたが、私と前後して同資格を取得した同窓先輩も本件を賛成し、加えて女高師定年退職後の先輩も参加した。更に日大退職の理工学系教授も加わるなど、順調に専任教授陣の用意を得た。又、当時疎開中の名ある文学者、法学者、又、現職の銀行支店長、放送局長、その他



学園長 関口富左

”新緑に包まれて“

一般教育の非常勤講師としての協力を得るなど、正に神助ともいふべきことに、教授陣が決定された。尚また、戦時中郡女専攻科生の専科正教員資格付与試験合格者の一人が教職を投げ、新計画への事務的奉仕を願ひ出た。若干の生徒、教授方の対応等、ないのは教室としての建物であつた。当時開成山公園の北西角に、一部兵舎として使われてもいた、開成社の開業館という瀟洒な洋風の建物が空家となつてあつたが、義兄の大神宮宮司の借用願で了承されたので、学院設立に対しての一応の準備が整つた。書類等も何かと作成提出し、事なきを得て敗戦後の翌々年、昭和二十二年三月、県の認可を得て「郡山女子専門学院」としての発足に漕ぎつけた。ここまでは比較的容易であつたが、昭和二十二年、教育基本法が制定され、同二十五年、初の短期大学制度が施行されることになった。これにかかる準備書類の作成は、並大抵のことではなかつた。ヤミ屋と同居の東京行、夜行列車数回往復。文官の指導数々、生涯初めての労苦を味わひ学んだが、それでも昭和二十五年、日本初の短期大学百十三校の一つ「郡山女子短期大学」として認可を得たことは、忘れられない忍苦と努力の賜であつて、喜びは大きかつた。だが、敗戦後の財務は容易ではなかつた。但し、自ら進んでの仕事であつたことが、幾多の苦難を経験しつつ、その内から新たに学ばべきことの数々を得た。

「時は行為を包摂し、しかも真意と識別を以て分つ……」と……

学園を包む新緑は、今年も多彩に輝き、白亜の校舎と五万余の卒業生、三千の在校生の成長と充実に輝きを与えている。(H18.5.3記)

いまここに 創立六十周年

桜花の下で祝う

学校法人郡山開成学園は六十歳の還暦を迎えた。四月二十二日の式典に合わせるが如く、「開成桜」は満開。この良き日を祝った。

式典は午前が附属高校の部、午後が大学・短大の部と分かれたが、二部とも同じプログラムで進んだ。

最初に記念式典歌を全員で歌ったあと、関口富左衛門園長が講話、六十年の成果は学園に集いし者一人ひとりの

努力と知力が一致して充実、発展に至ったことであると述べた。そして「生ある限り建学の精神を忘れず、さらなる充実発展に努力しなさい」と学園と若人の未来に期待を寄せた。

続いて関口修理理事長が挨拶し、「今日ここにいる皆さんが先輩からの引き継ぎで節目の日を迎えた。そのことを心し充実したものを後輩にバトンタッチしなさい。一人ひとりが助け合いながら良い社会を築き上げて欲しい」と述べた。

続いて、学園五十周年に植樹した檜と杉の成長ぶりを現地鞍手山（熱海町・高土山（長沼町）の開成の杜と五十五周年に植えた、遊々の杜のその後を視察した結果



六十周年の喜びを述べる学園長

を、高校の部では馬場侑里さんが、大学の部では星奈菜さんが報告した。鞍手山と高土山では高さ五m、幹の太さ三十cmと生命力溢れた若木とな

った姿を見て感動したことを述べた。見事に成長した木々に自分達の姿を重ね、本学のメッセージである「自然を師として新たな学を」を理解し、これからも目標に向かって日々精進することを誓った。

附属幼稚園では二十一日、創立六十周年を祝った。関口富左衛門園長が「郡山開成学園は明日六十歳の誕生日を迎えます。皆でお祝いしましょう」と述べ、飾つてあった園旗を示して「赤い色は太陽、白く形どった花は梅の花。KGCは大学の印です」とお話しした。皆で「むすんでひらいて」を手振り



心と心を結ぶ大合唱



園旗を説明する関口園長

幼稚園も学園誕生日を祝う

附属幼稚園では二十一日、創立六十周年を祝った。関口富左衛門園長が「郡山開成学園は明日六十歳の誕生日を迎えます。皆でお祝いしましょう」と述べ、飾つてあった園旗を示して「赤い色は太陽、白く形どった花は梅の花。KGCは大学の印です」とお話しした。皆で「むすんでひらいて」を手振り



表彰者（高校）



表彰者（大学・事務局）

永年勤続者を表彰

式典では永年勤続者の表彰があり、高校の部で二名、大学の部で七名に

表彰者は次のとおり。（敬称略）
「勤続四十年」▲大学／広井勝
「勤続三十年」▲事務局／鈴木健介、江連幸典、澤井美恵子、遠藤幸子
「勤続二十年」▲高校／八幡文明、鈴木裕子
「勤続十年」▲短大／桑野聡▲事務局／佐藤利枝子

食生活・栄養研究所設立へ 六十周年記念事業

創立六十周年の記念事業として懸案であった食生活・栄養研究所設立への構想が進んでいる。

本学園は高校で調理師を養成する食料科、短大家政科食物栄養専攻では栄養士とフードスペシャリストを、大学・食物栄養学科では栄養士と管理栄養士を養成する機関として実績を重ねて来ている。

半世紀にわたって蓄積した「知」の引出しを開放。本学園の豊富な「食」の教授陣と管理栄養士が研究している「食と栄養」を地域に還元するのが目的。「健康な私への相談、助言を行う窓口を62年館内に設け、自由に出入りしていただく。その62年館の屋上には四月に「屋上菜園」を造成した。



研究所設立予定の62年館

キャベツ、ブロッコリー、トマト、ナス、ピーマン等々の野菜を栽培する。学生、生徒の実習農園としての役割も果たせる。



食への理解を深めた市民フォーラム

講演は私達が食べている食品を見直し、食の効用を探る興味ある内容で聴講者は熱心にメモを取り、質問をしたりと有意義な会となった。

市民フォーラムは今後も定期的に開催する。

創立六十周年記念 平成十八年度第二回教養講座 宮澤賢治と私

講師 国際日本文化研究センター名誉教授 山折哲雄氏



賢治の作品を解説する山折講師

私「大学の部「宮澤賢治と時代」。

山折氏は宮澤賢治と同郷の岩手県花巻のご出身。幼少の頃から賢治の人となりを聞かされてきたと振り返る。そして賢治の作品の中で重要な意味を持つ「風」の存在に気付いたと本題に入った。

賢治の作品の中には、詩であれ、童話であれ、風の話がたくさん出てくる。童話「風の又三郎」の冒頭では不気味な風が吹く。風に乗って来たかのように少年が山間部の学校へ転校して

く。物語の最後にも風が吹き少年は去る。「あれは風の精だよ」と言う吹きが聴えて来るように思える。

「注文の多い料理店」では風と共に現れた料理店に入った紳士（狼師）二人が次々と扉を開けて進むうちに自分達を食ふようとして狙っている動物の目を感じて逃げ出す。その時、冷たい風がすーと吹き店が消える。物語の展開に何故「風」を吹かせたのか。動物と人間の生きるものに差別はないと考える賢治の感受性が「風」を呼んだ。

「銀河鉄道の夜」では、病気の母を看病している少年がある夜一人で山へ登り、頂上で夜空を見上げる。そこへ冷たい「風」が吹いて銀河の彼方から

「銀河鉄道の夜」では、病気の母を看病している少年がある夜一人で山へ登り、頂上で夜空を見上げる。そこへ冷たい「風」が吹いて銀河の彼方から

人間生活学科三コース制始動

東北、北海道での女子大では初の一級建築士資格取得へ

人間生活学科は昭和六十一年四月、全国に先駆けて開設された学科である。学科のねらいは、人間守護の理念に基づき、人と物とのかかわりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を守り一層向上させ、よりよい生活を実現するために学ぶことである。

平成十八年四月より三コースとなり、コース制のねらいは、本学家政学の



建築デザインコースでは一年から製図やデザインの基礎を学ぶ

人間守護の理念を実現することによって社会の充実、発展に寄与することである。

◆生活総合コース 人間生活を総合的に、かつ専門的に学ぶ。多様な生活問題を解決する総合的な力を身につけることを目標としている。

取得できる免許は、中学・高校教諭一種(家庭)、二級衣料管理士受験資格がある。

◆福祉コース 福祉の本質を究め、福祉の理論と実践を学ぶ。

取得できる免許は、中学・高校教諭一種(家庭、高校教諭一種(福祉))。さらに十九年度より社会福祉士受験資格、介護福祉士資格が取得できるよう準備中である。

◆建築デザインコース 人間生活の基本である住むことについて、その本質を究め、高度の理論と技術を学ぶ。免許としては中学・高校教諭一種(家庭)。そして新たに一級建築士実

務(一年)および一級建築士(実務なし)の受験資格が可能となった。さらに、インテリアプランナー(実務二年)、インテリア設計士一級(実務二年)、建築設備士実務(二年)、商業施設士等の受験資格が取得できる。このような資格を取得できる女子大学は、東北、北海道地区では本学のみである。

短大保育科が幼児教育学科へ

平成十九年度より科名改称予定

短期大学部保育科は平成十九年度より科名を幼児教育学科と改称する予定である。それにより、学生各自の学びの内容を明確にするため、幼児教育学科コースと幼児教育・保育学コースのコース制を導入する。幼児教育学科コースは定員五十名。幼稚園教諭のスペシャリストになるコース。幼児教育・保育学コースは定員百名。保育士資格と幼稚園教諭の二つの資格取得が目標である。

杜のなかで

大学教育の社会的貢献

社会的貢献は今や大学教育のキーワードとなっている。この背景として、平成十年十月の大学審議会答申「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について」がある。この中で、今後の大学教育の基本理念の第一に、課題探求能力の育成が挙げられ、そしてこの能力育成の基盤として教養教育が位置づけられている。ここで言う教養教育の内容の一つは、「環境問題と社会」「現代社会と法」「人間生活と分子生物学」などの授業を通して、社会的、学問的に重要な主題や、現代社会が直面する諸課題に対して、総合的に判断し、対処する

能力を養成することである。ここには、大学教育の重要な役割として、社会的貢献が明瞭に示されている。それにしても、社会的貢献は、古く大学の使命であった。この点を、村上陽一郎国際基督教大学大学院教授が「科学者とは何か(新潮選書)の中で、おおよそ次のように記している。十一世紀ネサンス以降、ヨーロッパ各地に大学が誕生したが、十三世紀になると、大学に付属の医学校、神学校、法学校が併設され、そこから、医師、聖職者、法曹家が輩出された。注目すべきことは、これらの人々の職業が、「苦しい人々のために、その才能を使いませんか」という神の呼びかけがありそれに同意し、「やらせて戴きましよう」と神の前で誓約し、初めて成立するものであったという

ことである。こうして、神の言葉、愛、正義を具現するための存在として、医師は身体に病に苦しむ者、聖職者は精神の不安に苦しむ者、法曹家は社会の不正義に苦しむ者に救いの手を差し伸べたのである。このように、大学はその初期において、崇高な社会的使命を担っていたことが分かる。本大学学則第一条は、生活文化と社会開発に寄与する専門職業人、世界平和と人類の福祉に貢献する人物の育成、同短期大学学則第一条は、文化国家、協力社会の形成と世界平和の確立、人類の福祉増進等に貢献する人物の育成を謳っている。本学のこの社会的使命をさらに普遍化するために芸術鑑賞講座や教養講座を課している。

特集 学びの旅 大学・短大研修旅行

本学生の十七年度研修旅行は二月から三月にかけて実施された。異文化に接し、歴史や民俗を学び、今後の学習に膨らみをみる体験となった。

海外生活実習を終えて

人間生活学科四年 芝田 理香



ランジス総合市場を見学する学生たち

衣・食・住・福祉・経営をテーマに四泊六日の研修をフランスのパリで行ってきました。モードと衣装の博物館、ランジス総合市場、ル・コルビュジエが設計したラ・ロシュシュールを見学。Les Aumettes高齢者福祉施設、そしてU.F.C.S女性市民社会連合でレクチャーを受けました。フランス文化や人々の考え方、習慣等について学び、短い時間でしたが、異国の空気を肌で感じ、貴重な機会を得ることができました。

福祉施設で感銘

福祉情報専攻二年 赤井 純美



あじさいホームでスタッフから説明を聞く一同

私たちの研修旅行は、東京横浜方面でしたが、特に印象に残ったのは重度身体障がい者福祉ホーム新宿区あじさいホームの見学でした。利用者に合わせ、車椅子でも利用しやすいエレベーター、腰掛けやすい高さの畳部屋、座った状態で調理可能な調理台等を見て回りました。スタッフの皆さんが笑顔で対応して下さる姿が印象的でした。また、エコバックや葉書

ドイツの幼児教育を視察

保育科二年 黒澤 幸恵



ドイツの幼稚園にて

九日間のヨーロッパ研修では、保育者を目指す私達にとって自由を旨とするドイツのユタイナー教育を実践している幼稚園を視察でき、とても貴重な経験となりました。また、二日間に及ぶホームステイでは、ドイツの家庭料理やファミリーに接し、パリではフランス文化や芸術を味わうことができました。

沖縄・琉球文化に触れて

生活芸術科二年 吉成 友希



首里城・朱門にて

一月二十八日から一泊三日で私たちは沖縄を訪れました。色鮮やかな琉球ガラスについてはもちろん、戦争時の跡を展示したひめゆりの塔、世界最大の水槽で有名な美ら海水族館などを見学しました。中でも琉球王国の歴史そのものである首里城は、朱色を基調とした建物がとても綺麗でした。その他にも色々なところを見学体験してきましたが、本州とは違った歴史や美術を実際に目にすることで、また一つ知識を得ることができ、とても有意義な研修でした。

モーツァルトゆかりの地を訪ねて

音楽科二年 三浦 亜津子



ザルツブルグ城を背景に

モーツァルト生誕二五〇年という記念の年にウィーン、ザルツブルグとモーツァルトゆかりの地を訪れた研修旅行は、音楽を勉強する私達にとって一生忘れられない感動の体験となりました。ザルツブルグではモーツァルトの生家を見学し、直筆の手紙や楽譜、楽器などを実際にこの目で確かめ、ウィーンでは歌劇「魔笛」を鑑賞し、本場の音楽の素晴らしさを肌で感じることができました。

初の台湾研修にて

文化学科一年 川村 裕美



佛光山にて

世界四大博物館の一つ、故宮博物院をはじめ、台南から台北の順で蓮花潭、鹿港民俗文物館、忠烈祠などを見学しました。現地ガイドの丁寧な説明で、時代背景など、より一層理解を深めることができました。

の世に於ては國ラヒニテ其の手勢に近キ
兄の運動表現における發達の特徴

▽短大・文化学科

▽現代社会における宗教の役割 信仰と
▽現代生▽会津若松市笹山原遺跡 No.16
出土の土師器 須恵器▽宗教と戦争 現
代アメリカ社会を手がかりとして▽ミケ
ランジェロ作システイナ礼拝堂天井画
▽龍のシンボリズム

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト：久家三夫

趣味

戴内 博昭

私の趣味は二つある。一つは絵画。もう一つはゴルフである。一つともなるとなく趣味となつて来たものである。

小さい時から絵を描くことは大好きであった。最近では鑑賞することも加わつて「絵」の世界にどっぷり浸かつている。先日、上野で開催された「ブーシキン美術館展」に出かけた。また、地域の絵画グループ会で、互いに描いた絵を批評しあつて愉しんでいる。

石原慎太郎さんの言葉かどうかわからないが、「誰でもピカソ」というほど、絵を描くことは本人自身の問題であり、対象物を自分がど

う表現し、どう感受するかの問題と思つてゐる。要するに「感動をどう表現するか」である。
さて、もう一方のゴルフは、健康を維持するのに良いと思つてゐる。私は、ゴルフ能力はないと自認している。へたの横好きである。先日、ある雑誌に「ハンディ20」になるには、ゴルフ以外の趣味を捨て、「ハンディ10」になるには家族を犠牲にし、そして、「シングル」になるには、仕事を犠牲にしなければならないと書いてあつた。私は家族を犠牲にするほどゴルフをしていないから、ハンディ20そこに留まつてゐるのだろうか。



題名「板」F10号

私としては、趣味の絵画を捨てずに、家族を犠牲にしないで「ハンディ10台」位にはなりたといと頑張つてゐる。果たして10台位になりえるかどうか自問してゐる今日この頃である。

(経理部長)

ゴヤの墓参り

富永 弘美

飛行機を降り立ったら、最初に目に付いたのが高さ3メートルほどある赤ワインの大きなボトルだった。「ああ、これはボルドーなのだ」と、ひとり感激した。

成田を午後十時に発ち、ドゴール空港に午前四時半頃到着した。それから、四時間待つてボルドー行きに乗り換えた。時間は午前九時、今はまだ三月というのに夏のようなコバルトの空。気持ちの良い風が私を迎えてくれた。
今回のこのひとり旅は、今専攻科で勉強中の、画家フランシスコ・ゴヤ

のことを調べるためだ。とりあえず荷物を寄宿先に置き、近くのカフェでカヌレ（ボルドー女子修道院で作られていた伝統的な焼菓子）とゴージャの祝杯を挙げた。

数日後、街を散策しながらゴヤの墓まで歩いて行つた。少し郊外よりの街中にあり、日本では横濱にある外人墓地のようなところだつた。入り口の守衛さんから渡された墓地の地図を片手に探した。お洒落でにぎやかなことが大好きなゴヤにすれば、少し意外だつたが、簡素なお墓は周りと調和がとれ、ひっそりたたずんでいた。（遺体は最初ここに埋葬されたが、一九一九年になつてスペインのマドリッド、サンアントニオの庵に移された）

ボルドーはゴヤが晩年に過ごした土地だ。今私もここに立つてゐる。何て素晴らしいことだろう。

このような貴重な体験ができたのも、専攻科と出会えたからであると再認識した。

(短期大学部専攻科一年)



ゴヤの墓と筆者

春、心新たに

原田 翠

私は現在、放送部に所属しています。十六年連続全国大会出場という伝統ある部の部長として誇りをもつて活動し、とても充実した毎日を送っています。

放送部では日々の発生練習から始まり、アナウンス・朗読・番組部門に分かれて練習に取りかかります。私はこの活動を通していろいろなことを学んでいます。放送技術、朗



筆者

読技術など多々ありますが、一番は仲間の大切さです。嬉しいときや悲しいとき、悔しいときなど、必ず近くには仲間がいます。ときには優しく、ときには叱つてくれたりもします。だからこそ私も仲間に対してそのような存在でありたいと思つてゐます。

誰かに何かを伝えることは素晴らしいことです。しかし、まだ私には上手に伝えることができません。それでも私は、この放送部の活動を通して多くの大切なことを伝えていきたいと思つてゐます。

桜の季節、新入生を迎えた学園は華やかで活気に満ちています。私も最上級生としての自覚を深め、放送部の仲間たちと共にいきいきと活動したいです。そして今年も全国大会出場、さらには日本一を目指して、心を豊かに「声」を鍛え「言葉」を育んでいきたいです。

(高校普通科三年)

私の本棚

アラン・マクファーレン 著

田口俊樹 訳

『リリーへの手紙』
祖父から孫に伝えたい20のこと
ソフトバンククリエイティブ出版

郡山女子大学短期大学部 助教授

奥秋 和夫

昨年初孫が生まれた。祖父として孫にどのように接しようかと考え始めた中で出会ったのがこの本である。イギリスの人類学者である著者が、今は七歳の自分の孫娘に宛てて、十

台所のスタイルは、その時代の社会問題やしくみを反映してゐます。戦前の台所は暗くて寒い北側に位置することが一般的であり、ここでは主婦があかぎれの手をさすりながら、炊事に明け暮れてゐました。

戦後は男女平等の憲法のもとに、主婦が家庭の中心的存在になりました。同時に台所空間も一変し、ダイニング・キッチンとして家の中央に位置するようになりました。

生活診断室

シリーズ 98

岐路に立つ「台所」空間

郡山女子大学 助教授
北川 圭子

このダイニング・キッチンは戦後の住様式として圧倒的な人気を得て、一九六〇年代後半から全国に普及しました。しかし、一九八〇年代には、対面式キッチンに首位の座を譲ります。流し台に立つ人が家族と向き合うスタイルです。そして近年は、アイランド型キッチンが急速に増えています。家族全員が調理を楽しむ食事をとるといふ、豊かな空間ス

タイトルです。
一方、若い層では奇妙な台所が出現しつつあります。二つのものがあるだけの、いわば「物置き型台所」です。その二つとは、「分別用のゴミ箱」とコンビ二弁当を温めるための「電子レンジ」です。ここには子どもたちのために調理をする母親の姿も、食事や団楽の光景も見当たりません。
日本の台所は今、岐路に立っていると思われま

年後、十七歳に育つた時に読んでほしいと書いた手紙という形式になつてゐる。

取り上げられてゐるテーマは、「家族」とは「愛」とは「友達」とは「何か」基本的なものから、「戦争」とは何か「テロリスト」とはどういう人か」という現代的なもの、さらには「自由はどこからやってくるか」「魔法とは何か」「人はどうして一生懸命働くか」といった興味深いものまで二十項目。

著者は、現在もそしてこれからも続くであろう混沌とした時代を生きて子どもへ、決してきいてほしいことではない現実を見つめその中から未来への夢や希望を見出してほしいと語りかける。自らの矛盾に満ちた本性を受け入れ、他者を尊重し、人間にだけ与えられた「ずば抜けた知性」を用いることで、「よりよい世界」「よりよい人生」にすることは可能だと孫に力強く伝えるのである。

ともすれば人生の指針を失いそうになりがちな若者にとつて、又若い世代に伝える上辺だけではない誠実なことばを得たいと思つて居る大人にとつても多くを学ぶことのできる一冊だと思ふ。
「尊敬・責任・自由」の建学の精神にも通じるところのあるこの本を、将来孫に手渡す書として大切に私の本棚に置いておきたい。

ようこそ郡山開成学園へ

新任教職員の
方々のご紹介

大学

〔新採用〕



小野寺 潤子 教授 東京
女子医科大学医学部卒業
医師。前順和会山王病院
産婦人科勤務。医学博士。
所属：人間生活学
三瓶タミ子 助教授 郡
山女子短期大学家政科卒
業。太田記念病院栄養部
科長。前シタックフーズ
ード栄養顧問。管理栄養士。
所属：食物栄養学



阿部 恵利子 副手 郡山
女子大学大学院修士課程
修了。期限付副手(十二
年度から)。
所属：人間生活学



善方美千子 副手 郡山
女子大学大学院修士課程
修了。期限付副手(十二
年度から)。
所属：食物栄養学



平野由香里 副手 郡山
女子大学家政学部人間生
活学卒業。
所属：人間生活学



根本寛子 副手 郡山女
子大学大学院修士課程修
了。管理栄養士。フーズス
ペシャリスト。
所属：食物栄養学



田村修一 助教授 筑波
大学大学院博士課程修了。
心理学博士。認定カウンセ
ラー。
所属：保育科



齋藤智志 助教授 学習
院大学大学院哲学専攻博
士前期課程修了。前学習
院大学非常勤講師。
所属：家政科福祉情報専攻



〔新採用〕
短期大学部



〔新採用〕
短期大学部



〔新採用〕
短期大学部

附属高等学校

〔本採用〕



八巻真里 教諭 茨城大
学教育学部卒業。附属高
校期限付講師(十四年度か
ら)。
担当：保健体育



〔期限付採用〕
村田晃一 講師 東北学
院大学教育学部卒業。安
積高校御館分校常勤講師
担当：英語



〔期限付採用〕
加茂朋子 講師 郡山女
子大学大学院修士課程修
了。郡山農業高校常勤講師
担当：食物



〔期限付採用〕
石澤久美子 教諭 郡山
女子大学短期大学部保育
科卒業。幼稚園教諭。保育
士免許。
担当：生活学



〔本採用〕
家庭寮



〔本採用〕
家庭寮



〔本採用〕
家庭寮



〔本採用〕
家庭寮



〔本採用〕
家庭寮



〔本採用〕
家庭寮

事務局

〔新採用〕



池下勇男 職員 日本大
学法学部卒業。前福島民
友新聞社仙台支社長。
所属：入学生務部広報室



〔期限付採用〕
鈴木千佳 職員 郡山女
子大学大学院修士課程修
了。
所属：就職部



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



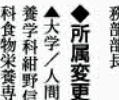
〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課



〔期限付採用〕
橋本祐順 職員 郡山女
子大学短期大学部文化学
科卒業。
所属：事務部学生生活課

NEWS 学園 ニュース

おめでとう

ボーリングアジア大会銅賞
石塚香織さん(短大)

附属高時代に一つの全国大会を制
覇して、アジア大会の日本代表に選ば
れた石塚香織さん(短大・福祉情報
専攻)は、二月一日からオーストラ
リアパースで開催された「第十三回ア
ジアユースボーリング選手権大会」に
日本代表として出場、団体、個人で
活躍した。石塚さんは女子四人チー
ム戦のロングオイルとショートオイルで
共に三位入賞に貢献し、銅メダルを
獲得。

日本語能力テスト一級合格 中国留学生 項菲さん(大学)

「日本語能力テスト一級」は英検
一級と同等の難関。日本の文化、習
慣を勉強した上でないとなかなか合
格できない。中国からの留学生項菲
さん(大学・人間生活学四年)は二
級をクリアした勢いで、昨年十二月の
一級テストへ初挑戦、難関を突破。水
泳高飛び込み選手で培った「頑張り」が
功を奏した。

全国大会で演技 高校・新体操部

全国高等学校新体操選抜大会が
三月、富山市で開催され、本校新体
操部が出場した。試合前の調整合宿
で、他県チームと合同練習をすませた
選手たちは大会にのぞみ、六位入賞
を果たした。合同練習で受けた刺激
や多くの方から受けた激励が勇気の
源になり、部員(渡辺、田島、森田、川

モーツァルトを聞く KGC音楽研究会例会

KGC音楽研究会は本学園の音
楽関係の教職員で構成され、毎年、
学外の著名な音楽家や研究家による
講演会を開催し、研修の場としている。
本年はモーツァルト生誕二百五十年
を記念して、海老原敏氏をお招きし
た。海老原氏は前国立音楽大学学長
、モーツァルト・ウム財団名誉団員、新
国立劇場オペラ研究所所長にある世
界的モーツァルト研究の第一人者。
演題は「モーツァルトの世界―十八
世紀のモーツァルト、そしてモーツァルト
の現代」

モーツァルトの音楽が全世界の人達 から何故親しまれているかについて、 その生涯を振り返り演奏会の映像 を投射しながら解説した。

定期演奏会ひらく 短大・音楽科

平成十七年度の短期大学部音楽
科卒業演奏会は二月二十六日、建学
記念講堂で行われた。卒業生、二十
一名全員が各自の専攻ごとにピアノ、声
楽、クラリネット等でデュオ、トリ
オ、アンサンブルの楽曲を情熱を込
めて演奏した。二年間の成果を披露
した学生に、会場を埋めたご家族や
同窓生、高校生から盛んな拍手が送
られた。

卒業制作展で成果を発表 短大・生活芸術科

第五十回生活芸術科卒業制作展
が一月十三日から十七日まで建学記
念講堂ギャラリーで開催され、二年

若者の情感あふれる作品群 高校・美術科

第三十一回卒業作品展が昨年暮
れに建学記念講堂ギャラリーで開催
された。美術科三年生二十名は日本
画、油画、ビジュアルデザイン、クラフト
デザインの各部門で百二十点の作品
を展示発表した。

卒業作品発表会 賑わう 高校・食物科

食物科卒業予定の三十九名によ
る平成十七年度卒業作品発表会は
昨年師走の一日間、高校調理室と試
食室を会場に行われた。

三年間の学習成果をステージで 高校・音楽科

十七年度の卒業演奏会が感動の
うちに終わることができた。十七名
の三年生が自分が専攻として学んだ
声楽、ピアノ、クラリネット、サキソフォ
ンなどの演奏を通して三年間学んだ
演奏技術を豊かな表現で見事に発
表した。最後に音楽科全員による合
唱と校歌を歌い、後輩からのお祝い
花を胸に感動の涙で閉じた。

祝・学園創立六十周年 第百五十回芸術鑑賞講座 佐藤美枝子ソプラノリサイタル

～美声に酔う珠玉のひとつ～

オペラ「魔笛」で難曲の高音のアリアを聴かせるソプラノの佐藤美枝子さんをお迎えしての第百五十回芸術鑑賞講座が学園創立六十周年記念の第一弾として五月十九日建学記念講堂大ホールで開催された。ピアノ

は国立音楽大学講師の河原忠之氏。佐藤さんは、チャイコフスキー「国際コンクール」声楽部門で日本人初の第一位に輝いた実力派。第一部は「浜辺の歌」からたちの花」などの歌曲を中心に、第二部では、オペラのアリアを熱唱。コケティッシュなルゼッタ(ボエーロ)、乙女の恋心を表したジルダ(リゴレット)、そして心に翳りを秘めたルチア(ランメルモールのルチア)など三人三様の主人公の女性を見事に表現した。その演技力と技巧に学生、生徒は感激しその美声に酔った。



オペラ歌手の修練された美声に感嘆の声が

第二十二回劇とあそびのこころ 充実した舞台に称賛の声

大科
短保育

二十二回目となった短大保育科学生による「劇とあそびのこころ」が二月四日、建学記念講堂大ホールで開かれた。当日は前日からの降雪で一面銀世界の中、近隣の幼稚園、保育所から園児と家族、卒業生、高校生約九百名が来場し賑わった。ステージでは関口富左衛門長作詞による「ちいさいおきくさま」への曲で幕を開け、二年生によるオペレッタ、人形劇などが次々と繰り広げられた。

より全学生に貸与されているパソコンを駆使した「クレイアノーション」も上演され、子どもたちに喜ばれた。また「みんなで踊りましょう」では会場の小さなお友だちも舞台上に並び、学生と一緒に体操を披露し観客席と一体となる温もりの演出だった。



学生の手作りの舞台

一方、展示ロビーの「遊びのコーナー」では、おもちゃ作りやゲーム、絵本の読み聞かせ、歓迎ハンドベル演奏で一年生が活躍した。

ぼくとわたしの はっぴようかい

附属幼稚園

寸劇とおどり、園児たちの懸命の演技が笑顔を運んでくる。ご家族の方々はマイビデオで息子や娘の一举一動を収めている。

附属幼稚園の恒例「ぼくとわたしのはっぴようかい」は二月十六日と十七日の二日間、園内ホールで開かれた。リズムに合わせて楽器を使ったり、可愛い衣装を身につけて元気に踊る園児。ご家族を前に緊張しながらも、舞台一杯に練習の成果を立派に示した。ビデオ撮影の手をとめて拍手するお母さん。アルバにまたひとつ成長の証を残した園児たちだった。



息の合った躍りに大きな拍手が

ちだった。

耐震補強工事進む 芸術館に憩いのテラス完成

災害から学生、生徒を守るため、校舎や事務棟の耐震補強工事を進めている本学園は、この春「芸術館」を補強改修した。「芸術館」は三階建てのべ二六三七㎡。ピアノ練習個室を始め、絵画教室などを粘着性ダンパーブレース工法で補強した。この工事で大変身を遂げたのが中庭。鯉が泳ぐ小池が埋め立てられてテラスとなり、憩いのスペースが誕生した。椅子とテーブルがセッティングされ洒落た空間へと生まれ変わった。

耐震補強工事は今後図書館と高校特別教室を予定している。



学生の憩いの場となる洒落た空間が出現した

ダンスや歌で 新入寮生を歓迎

家庭寮

本年度の家庭寮では、東北六県はもとより、新潟、群馬等から新入寮生七十二名を迎えた。

歓迎会では七十七名の在寮生が拍手で迎えた。学園長からの心のこもった歓迎メッセージが披露され、新入寮生は大喜びだった。

在寮生からはダンスや歌の余興が次々と会場一杯に繰り広げられた。故郷を離れて慣れない生活に寂しさを感



愉快なステージダンスにわく歓迎会

じていた新入寮生は、先輩からの励ましと笑顔で受けとめ、楽しいひとときを過ごした。

食を学ぶ「体験菜園」 屋上に菜園完成

学園創立六十周年記念事業の一つとして計画されている「食生活・栄養研究所」の一環として「食」の原点を学ぶ「体験菜園」が62年館の屋上に設置された。

菜園は二つ。合わせて一四四㎡。四月二十四日開園式を行い、食を学ぶ学生、生徒、それに教職員の十四名が鋤入れを行った。そして、キャベツとブロッコリーの苗をそれぞれ六十株植えた。菜園は防水と水はけが上手に工夫され、土質も有機肥料を混ぜた風に飛ばない保水性のある特殊な土を使っている。

夏にはトマト、ナス、カブの植付けが予定されており、学生が交代で給水を行い、成長を観察して、生産者の気持ち



植付けをする学生、生徒

理解し、学業に反映させることにしている。

本学所蔵 紙上美術展 50

「春夏秋冬」 及川 秀峰



本短期大学家政科の第一回卒業生の及川秀峰(喜美枝)さんの書である。高さ一七一cm横一七〇cmの屏風半双に揮毫したもの。で本学園の創立六十周年を祝って寄贈された作品である。及川さんは現在上尾市に住み、書道家として大成され各種書道展の審査員を務められている。

木もれ陽

今、藤原正彦著「祖国は国語」の中で、国語は論理を育み情緒を培い、国家の根幹はひとに国語教育にかかっていると、改めて語られている。

松尾芭蕉は、元禄二年(一六八九)三月二十七日(陽暦五月十六日)、弟子曾良を伴い「おくのほそ道」の旅に江戸、深川を出立する。以後千住・草加・栃木・古河・日光と北上し、四月二日(陽暦五月二十日)那須野に入った。ここで次の句を吟ずる。

田 枚植えて立ち去る柳かな

△百姓たちが田を一枚植え終えるまで休んで、私は立ち去ることだ。この西行ゆかりの柳のもとを。西行法師がその昔の柳を詠んだ和歌がこうである。

道のべに 清水流るる 柳かげ

しばしとてそ 立ちとまりつれ

△清水が流れている道のほとりのやなぎ

の木陰に、ほんのしばしと思つて立ち止ってしまつた。

尊崇して止まぬ西行の足跡を尋ねての旅を続ける芭蕉は、師はこの柳にしばし立ちどまつたが、自分は懐古の情尽き、がたく思はず長居して、田一枚植え終るのを見てようやく立ち去ることだと、西行の歌と対応させて師への追慕の切実な心情を表白したのであつた。

国語を通して、今の人は古の人と心を通じ合わせることが出来る。国語を用いて、歌の伝統について五百年の隔たりを超えて、芭蕉は西行に語りかけている。芭蕉はここでこれまで生きてきた本

当に良かったと感じていたに違いない。国語とは、そのようなものではないのか。今ある人と語り合うことだけではなく、昔の人と、そしてやがては自分が昔の人となつても未来の人と語り合うことの出来る、そういう時空間を越えて交流していくことで、我々に生きる上での極上の喜びを与えてくれるのだと思う。

(均)